

## 平成 28 年度 第 2 四半期（上半期）報告 説明資料

## 朝日生命保険相互会社

当社は、平成 27 年 4 月から中期経営計画「SHINKA（新化・進化・真価）～未来に挑む～（3 カ年計画）」をスタートし、企業ビジョン『一人ひとりの“生きる”を支える～「お客様大好き」企業。朝日生命～』の実現に向け、様々な取組みを行っております。

こうした中、平成 28 年度第 2 四半期（上半期）の保険業績については、営業職員チャネル・代理店チャネルともに新契約業績が高伸展し、保障性商品の保有契約が着実に増加を続ける等、順調に推移しております。

一方、収益面においては、基礎利益は前年同期を下回ったものの、経常利益は前年同期を上回る水準を確保しております。

また、財務面では、ソルベンシー・マージン比率が前年度末を上回る等、堅調に推移しております。

当社では、今後も中期経営計画「SHINKA（新化・進化・真価）～未来に挑む～（3 カ年計画）」の取組みを推進し、お客様から信頼され、選ばれ続ける会社を目指してまいります。

## 1. 業績の状況

## (1) 新契約

新契約年換算保険料（新規契約＋転換純増加）は、前年同期比 130.7%と大幅に伸展しました。また、第三分野部分についても、前年同期比 143.9%と大幅に伸展しました。

## 個人保険・個人年金保険の新契約（新規契約＋転換純増加）の状況

区分	平成 28 年度上半期		平成 27 年度上半期
		前年同期比	
新契約年換算保険料 （新規契約＋転換純増加）	165 億円	130.7%	126 億円
うち新規契約	136 億円	125.8%	108 億円
うち転換純増加	29 億円	159.2%	18 億円
うち第三分野部分	119 億円	143.9%	82 億円

## (2) 消滅契約

消滅契約年換算保険料（解約＋失効＋減額－復活）は、前年同期比 96.0%となりました。

### 個人保険・個人年金保険の消滅契約の状況

区分	平成 28 年度上半期		平成 27 年度上半期
		前年同期比	
消滅契約年換算保険料 (解約＋失効＋減額－復活)	110 億円	96.0%	115 億円
うち解約・失効契約	101 億円	96.9%	104 億円
対年度始消滅率	2.06%	△0.07 ポイント	2.12%

## (3) 保有契約

保有契約年換算保険料は、前年度末比 99.7%となりました。また、第三分野部分については、前年度末比 103.0%となり、第三分野部分の保有契約全体に占める割合は、前年度末に比べ 1.1 ポイント上昇し、35.2%となりました。

### 個人保険・個人年金保険の保有契約の状況

区分	平成 28 年度上半期末		平成 27 年度末
		前年度末比	
保有契約年換算保険料	5,372 億円	99.7%	5,389 億円
うち第三分野部分	1,891 億円	103.0%	1,836 億円
構成比	35.2%	+1.1 ポイント	34.1%

## (4) 保障商品の保有契約の状況

営業職員チャンネルにおいては、前年度に保障商品の保有契約反転を達成しており、平成 28 年度上半期においても、前年度末比 100.4%と引き続き堅調に推移しています。また、代理店チャンネルにおける保障商品の保有年換算保険料は、前年度末比 131.9%と大きく伸展しております。以上の結果、保障商品の保有契約年換算保険料は、前年度末比 100.9%となりました。

### 保障商品の保有契約の状況

区分	平成 28 年度上半期末		平成 27 年度末
		前年度末比	
保有契約年換算保険料	3,045 億円	100.9%	3,017 億円
うち営業職員チャンネル	2,981 億円	100.4%	2,969 億円

(注) 1. 全て年換算保険料ベースで記載しています。

新契約、消滅契約、解約・失効契約、保有契約の年換算保険料については下記のとおりです。

- ・年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
  - ・「第三分野部分」とは、「第三分野商品」の保険料と、傷害・疾病・介護等のいわゆる第三分野の保障に充当される「特約」の保険料を商品の種類を問わず集計したものの合計です。
2. 対年度始消滅率は、消滅契約年換算保険料（解約＋失効＋減額－復活）を年度始保有年換算保険料で除して算出しています。その前年同期比欄は、対前年同期増減を表示しています。
  3. 保有契約年換算保険料の第三分野部分構成比の前年度末比欄は、対前年度末増減を表示しています。
  4. 保障商品の保有契約年換算保険料は、貯蓄性商品を除く、死亡保障および、医療保障・介護保障・代理店で販売している無配当団体医療保険等の第三分野の合計です。

## 2. 収益の状況

### (1) 基礎利益

基礎利益は76億円となりました。内訳は以下のとおりです。

#### ①費差損益

費差損益は、新契約業績伸展に伴う事業費支出の増加等により、前年同期に比べ23億円減少しました。

#### ②危険差損益

危険差損益は、保険金等支払金の増加等により、前年同期に比べ33億円減少しました。

#### ③逆ざや額

逆ざや額は、利息および配当金等収入の減少により、前年同期に比べ17億円増加しました。

#### 基礎利益の状況

区分	平成28年度上半期		平成27年度上半期
		対前年同期増減	
基礎利益	76億円	△73億円	150億円
費差損益	23億円	△23億円	46億円
危険差損益	402億円	△33億円	435億円
逆ざや額	△348億円	△17億円	△331億円

### (2) 経常利益・中間純剰余

経常利益は155億円、中間純剰余は107億円となり、ともに前年同期を上回りました。

#### 経常利益・中間純剰余の状況

区分	平成28年度上半期		平成27年度上半期
		対前年同期増減	
経常利益	155億円	+20億円	135億円
中間純剰余	107億円	+8億円	98億円

### 3. 財務の状況

#### (1) ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額

ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ 15.5 ポイント上昇し、707.0%となりました。実質純資産額は、前年度末に比べ 7 億円増加し、9,970 億円となりました。

#### ソルベンシー・マージン比率の状況

区分	平成 28 年度上半期末		平成 27 年度末
		対前年度末増減	
ソルベンシー・マージン比率	707.0%	+15.5 ポイント	691.5%

#### 実質純資産額の状況

区分	平成 28 年度上半期末		平成 27 年度末
		対前年度末増減	
実質純資産額	9,970 億円	7 億円	9,962 億円

#### (ご参考) 有価証券の含み損益

#### 有価証券の含み損益の状況【一般勘定】(有価証券のうち時価のあるもの)

区分	平成 28 年度上半期末		平成 27 年度末
		対前年度末増減	
有価証券全体	5,683 億円	△105 億円	5,788 億円
うち国内株式	604 億円	△44 億円	649 億円
うち国内債券	4,706 億円	+37 億円	4,668 億円
うち外国証券	402 億円	△58 億円	460 億円
うちその他の証券	△78 億円	△35 億円	△42 億円

以 上